柑橘

２月の農作業管理

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

１　表層根づくり

○有機物等の投入

夏の猛暑と着果過多により樹体が弱っていますので、樹体回復を図るため、樹冠下に堆肥施用を行い細根の増加をはかりましょう。

○石灰資材の投入

肥料の投入・降雨等で徐々に苦土、石灰分が流亡して酸性化が進み肥料の吸収が悪くなります。苦土石灰、サンライム、マリンカル等を施用して、苦土、石灰の補給と酸性土壌の改善をおこないましょう。

また、<u>苦土欠乏症が出ている園は、水マグを１０ａあたり４０kg 施用</u>しましょう。

苦土欠乏症の柑橘の葉



２　密植園の間伐、園周辺の雑木の整理

密植の弊害として、隔年結果の助長、品質の低下、着色遅れ等がおきます。
さらに作業性・防除効率は低下し、農薬散布時には作業者への農薬飛散も多くなります。
樹と樹の枝先が重なり合う園では間伐をおこない、独立樹にしましょう。
また、園周辺の雑木の整理を実施して園の日照条件を改善しましょう。

３　春草の除草

地温の上昇にともない春草の生育が活発になります。草と樹の養分競合を防ぐため早めに春草の除草をおこないましょう。

使用薬剤	適用雑草名	10a 当たり使用量		
		薬量	希釈水量（通常）	希釈水量（少量）
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	１年生雑草	200ml～500ml	50～100ℓ	5ℓ、25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
サンフーロン液剤（吸収移行型）	１年生雑草	250ml～500ml	50～100ℓ	25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
バスタ液剤（接触型）	１年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ	30～40ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
ザクサ液剤（接触型）	１年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ	
	多年生雑草	500ml～1,000ml		

※ラウンドアップ少量散布（５ℓ/10a）は専用のラウンドノズルＵＬＶ５を、少量散布（25～50ℓ/10a）はラウンドノズルＬＶ２５を使用して散布。バスタ液剤少量散布は専用ノズルを使用。

４　苗木の植付準備

苗木の植付を予定している園では、植付前に溝上げ、畝立等を実施し排水性の良い園に整備しましょう。植栽位置を決めた後、植穴を掘った土に堆肥 30kg、ヨウリン 300g、

サンライム 2kg を施用して、よく混和して植穴を埋め戻しておきましょう。
※堆肥等の基準量は深さ 50cm、直径 60cm 程度の植穴を基準としています。

5　貯蔵管理

予措・貯蔵条件の目安（坪あたりの入庫量は 800～1,000kg）

品種	予措程度　%	貯蔵温度　℃	貯蔵湿度　%
伊予柑	5～6	5～8	85
甘夏	4～5		85～90
はっさく	しない		90～95
不知火	2～3		90
清見	しない		90
はるみ	2～3		85
せとか	2～3		90
せとみ	2～3		90

落葉果樹

春肥の施用

品種	肥料銘柄	施用時期	施用量（10ａ当り）
キウイフルーツ	柑橘有機配合１号（8・6・4）	２月上旬～２月下旬	４袋
梅		２月下旬～３月上旬	２袋
西条柿		３月上旬	２袋

野菜

ソラマメの芽かき

成長するにしたがって、株元から何本もの芽が伸びてくるので、徒長した枝や幼少の枝を分岐点より切り取り、太くて良い芽を 4～5 本残しましょう。

タマネギの追肥

時　期：２月中旬～２月下旬
肥　料：燐硝安加里 S604
施用量：１㎡当り 10g
＊　２月下旬から急速に成長するため土寄せをおこない倒伏防止を行いましょう

水稲

土作り

年末、年始に行うことができなかった圃場は、今からでもケイカルを 10a 当り 200kg 施用し、15cm 以上の深さで耕運しましょう。

◎営農相談専用フリーダイヤル　　０１２０－０８２－７２２